



沼津市芹沢光治良記念館

戦後80年 連動企画展

「光治良の戦争と平和—『サムライの末裔』—」を開催します

要 旨

戦後80年を迎え、本市名誉市民である作家・芹沢光治良の作品で、広島原爆の恐ろしさを描いた小説『サムライの末裔』を特集した企画展示を開催します。

概 要

- 日 時 令和7年6月13日(金)～令和7年11月30日(日)
9時～16時30分(入館は16時まで)
*展示替えに伴う休館期間 6月2日(月)～6月12日(木)
- 場 所 沼津市芹沢光治良記念館1階展示室(沼津市我入道蔓陀ヶ原517-1)
- 内容(特徴)

芹沢光治良は、1950年に川端康成らとともに被爆した広島を訪問しました。後に、そこで見聞した原爆の恐ろしさを小説にして世界に発信すべく『サムライの末裔』(旧題『一つの世界』、1954年)を執筆し、海外で高い評価を得ました。

本展示では、この作品を中心に、終戦前後の日本、沼津、そして光治良に起こった出来事を、以下の主な資料を含む約80点を通してたどります。

- ・光治良が疎開中に記した日記
- ・フランス語訳『サムライの末裔』
- ・アイラ、エディタ・モリス夫妻の書簡
(※初公開資料)

- ・光治良、川端康成の往復書簡

モリス夫妻とは：被爆者の保養施設「広島憩いの家」を創設したアメリカの作家夫妻。



1950年 広島赤十字病院前で
(最前列左から2人目・川端康成、その左斜め後ろ・光治良)

お問い合わせ先

沼津市教育委員会事務局文化振興課 沼津市芹沢光治良記念館
直通:055-932-0255

戦後80年連動企画展

光治良の戦争と平和

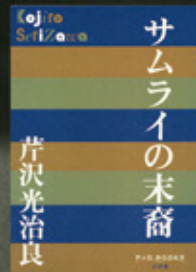
まつ えい
—『サムライの末裔』—

原爆をふせぐのには、
世界平和より他にない——

「死の影を見つめて—広島の記事—」(昭和二十五年)



『一つの世界』
(後、改題『サムライの末裔』)
(昭和29(1954)年 中央公論社)



『サムライの末裔』
(令和元(2019)年 小学館)

芹沢光治良 世田谷区三宿の家にて(昭和30(1955)年)

沼津市出身の作家・芹沢光治良。本企画展示では、

広島に投下された原子爆弾の恐ろしさや戦後を生きる日本人の姿を描き、後にヨーロッパでも翻訳された作品『サムライの末裔』を中心に、太平洋戦争終戦前後の日本や沼津の状況などを特集します。

期間 令和7年 6月13日(金)～11月30日(日)

*展示替えによる休館 6月2日(月)～12日(木)

【開館時間】9:00～16:30(入館は16:00まで)

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日

【観覧料】高校生以上100円、小人50円、団体20人以上2割引 市内の小中学生は無料

〒410-0823 静岡県沼津市我入道蔓陀ヶ原517-1

電話・FAX: 055-932-0255

電子メール: kojiro@city.numazu.lg.jp

沼津市芹沢光治良記念館

